**研究タイトル（MSゴシック12ポイント太字）**

日本語論文のサンプル

Title（Times New Roman12pt中央揃え）

青葉　たま子1,2，飛田　翔1,2　（MS明朝11pt中央揃え）

AOBA Tamako，TOBITA Sho　（Times New Roman 11pt中央揃え）

東北大学　探求型「科学者の卵養成講座」1,●高等学校2　（MS明朝9pt中央揃え）

EGGS, Tohoku University1　● Senior High School2（Times New Roman9pt中央揃え）

*Corresponding Author’s e-mail: aoba\_tama@tohoku.ac.jp*（*Times New Roman9pt Italic中央揃え*）

（日本語と英語でタイトル、著者名、所属を記載。）

（1行空ける）

［要約］

論文内容の要約を記入する。要約では、本論文の中で行ったことを簡潔に述べるとともにそれから得られた結論について記載する。要約が研究の背景だけで終わってしまったり、論文中で最後に記載する結論とほぼ同じ内容になっている場合があるが、これはよくない。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（日本語で400字程度または英語で250Words程度、MS明朝9ptまたはTimes New Roman9pt）

［キーワード］自動運転，風力発電，科学者の卵，○○○○，○○○○（日本語）

　　　　　　　Automatic Driving，Wind Generator，Science EGGS，○○○○，○○○○（英語）

（日本語と英語で5つまで、MS明朝9ptまたはTimes New Roman9pt）

（1行空ける）

**１．はじめに**（ここから2段組、見出しはMSゴシック）

　（本文はMS明朝9pt）

　ここでは、研究の背景や研究の意義、必要性について述べる（東北 1999, Tohoku 2005）。特に先行研究に関しての記載を引用をしながら行うこと（伊藤2015a、Sakai 2001）。また関係する研究グループの研究成果で不十分であった点や(伊藤2015b, Sato 2010)、本論文で扱う内容がどういったところに特徴があるのかに関して記載する。

（1行空ける）

**２．実験方法**

　（本文はMS明朝9pt）

　ここでは、研究を行う際に用いた実験装置や材料、研究の方法や手順について記載する。装置の特徴や先行研究で使った方法との違いも含めて、本論文で扱う実験手法に関して記載する。

（1行空ける）

**３．結果と考察**

　（本文はMS明朝9pt）

ここでは、実験を行った結果など研究成果について記述する。実験を行った条件や、得られた結果について説明を行うとともに、その結果から導かれた新しい事実についても記載する。ばらばらな実験事実を列記するだけではなく、一つ一つの実験結果から導かれた結果をもとに、次の実験を行っていく道筋を示したり、予想された結果と違う結果についてはその理由について考察を行う。

考察に関しては、実験条件が適正であったかもふくめ、別途考慮しなければいけない事項について検討を行ったり、理論と結果の対比を行うことを通じ、論文での主張点を明確にしていくことが重要である。

（1行空ける）

**４．結論**

　（本文はMS明朝9pt）

ここでは、本論文で行った研究の内容をまとめ、内容を簡潔に記述する。研究手段や結果の特徴や結果をまとめる。

（1行空ける）

**謝辞**

　（本文はMS明朝9pt）

本研究は東北大学 探求型「科学者の卵養成講座」（JSTグローバルサイエンスキャンパス）の支援のもとで実施されました。

（1行空ける）

**引用及び参考文献**

　（MS明朝9pt）欧文論文著者アルファベット順、和文論文著者五十音順に記載。

伊藤次郎、他3名 (2015a) 風力発電の翼構造. *IEEE Trans. Electron* 20, 108-120.

伊藤次郎、他8名 (2015b) 風力発電の発電効率. *IEEE Trans. Electron* 20, 368-381.

東北太郎、仙台桃子、浅虫五郎、秋田真凛（1999）強電界下でのナズナの成長過程. *Plasma Technology B* 11, 105-120.

Sakai Y (2001) *Management of Technological Change*. 10-25, John Wiley, New York.

Sato I, Abe S, *et al.* (2010) Experimental studies of new micro structure on dragonfly wings. *Proc. Inter. Zoological Conf. on Microstructure* 2, 123-124, Paris, France.

Tohoku K, Sendai M, Kaito S (2005) Future technology for intelligent power system. *IEEJ Trans*. *PE* 150, 130-136.

図

図のタイトルは図の下、MSゴシック8ptで中央揃え

図1　図のタイトル

表1　表のタイトル

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  | 表 |  |
|  |  |  |  |

表のタイトルは表の上、MSゴシック8ptで中央揃え